

参院選の結果を受け、桜井代表幹事がコメントを発表

「政局の混乱や政治の停滞により、改革が滞ってはならない」

参

議院選挙の結果について桜井代表幹事は、7

点を指摘した。

①自民党に厳しい結果になる

そのものについての評価ではないという印象だ。わが国の

常に残念な結果だ。

③安倍総理の続投は、総理自

身の決断を尊重すべきだ。い

月29日夜、左記のコメントを発表した。さらに翌30日の記者会見では、質問に答え次の

②参院選の結果は、構造改革

今後のあり方や、構造改革の展開についての議論を期待して

成長とそのための方針の継続

抱かぬよう、改革の継続、断行を引き続き強く求めていく。

第21回参議院選挙の結果について

2007年7月29日

社団法人 経済同友会
代表幹事 桜井 正光

1 今回の結果は、年金記録問題、政治と金の問題などに対する国民の批判の現れだと思う。安倍政権の改革路線を支持してきた立場としては、残念な結果であるが、安倍総理には、国民による厳しい評価を真摯に受け止め、国民の将来への不安と政治不信の払拭に努めていただきたい。

2 この先、財政再建の試金石となる2008年度予算編成、公的部門改革、税制抜本改革と持続可能な社会保障制度の構築など、日本の将来を左右する重要課題が山積している。政局の混乱や政治の停滞により、これらの改革が滞るようなことがあってはならない。改革の後退により、再び日本経済が停滞に陥ることを非常に懸念している。与野党ともに、「改革なくして成長なし」という基本方針を改めて確認し、改革の推進に向けた政策を競い合っていただきたい。特に安倍総理は、これら改革の必要性について、改めて国民に説明をするとともに、強いリーダーシップを発揮して、「小さな政府」の実現に向けた構造改革の継続・加速に全力で取り組んでいただきたい。

3 民主党は大躍進を遂げたが、これは主に、安倍政権に対する批判によって、国民の共感を集めた部分が大きいのではないかと。今は、国の成長と国民の豊かさを確かなものとするための重要な時期である。衆議院で第二党、参議院で第一党という重責を担う以上、その責任にふさわしく、単なる与党批判から脱して、国民の期待に応える国会運営を行ってほしい。そのためにも、今回の政権公約を踏まえて、目指す国の姿の明確化とより一層具体性・実現可能性のある政策の提示に取り組むことが不可欠である。

以上

参院選を前に夏季セミナーでも重要政策課題を討議

今年度のセミナーは、参議院選挙公示日と日程が重なったことを受け、特に自由討議のセッションを設けて、目前に迫った参議院選挙に対する期待と重要政策課題について意見を交換した。冒頭、桜井代表幹事は、「与野党とも中長期的な日本のあり方や政策をマニフェストに示し、目標・達成時期・財源等の具体的な数値を挙げ、国民の評価を受ける選挙になるべき」との期待とともに、年金記録や事務所費の問題等にばかり焦点があたる中、「それだけで国民の評価が決まり、構造改革の流れが止まることは日本にとってダメージとなる」との危機感を示した。

また、選挙戦を通じて議論を深めるべき重要政策課題について、桜井代表幹事は、様々な課題がある中、特に①公的部門改革、特に公務員制度改革、②社会保障制度一体改革、③歳出・歳入一体改革、の3点を挙げた。この認識は夏季セミナーのほとんどの参加者から同意を得たが、①グローバルな観点に立った争点——FTA・EPAの問題、外交・安全保障問題等——も極めて重要だ、②憲法問題、国家戦略といった国の根幹に拘わる議論が欠けているのではないかと、等の意見が出た。しかし、安倍政権のこれまでの実績に対する評価と構造改革の一層の推進という観点から、安倍政権の続投を望む意見、構造改革への揺り戻しに対する懸念という点では、ほぼ意見の一致を見た。